

ごあいさつ

赤嶺 一と申します。那覇高校二十一期生です。遺族を代表してご挨拶を申し上げます。

私の叔父 赤嶺康信は七十六年前の沖縄戦で、県立二中の学徒兵として動員され、通信隊の一員として、戦場に駆り出され犠牲となり一八七名の仲間と九名の引率教諭と共に、二中健児之塔に刻銘されております。

今日、私たちが享受している平和と繁栄は先の戦争によって失われた方々の尊い犠牲の上に成り立っていることを決して忘れてはなりません。

あの悲惨な日々を二度と繰り返さないこと、恒久平和を希求すること

が、亡くなられた方々への弔いであり、私たちの責務であると感じております。

今も世界のどこかで、内戦やテロにより多くの尊い命が失われております。この世界から全ての争いが廃絶されるよう共に祈りたいと思います。

昨年に引き続き、慰霊祭は新型コロナウイルス感染症の影響で会場を会場をここ城岳同窓会館に移し、規模を縮小しての開催となりました。規模は縮小しても平和学習の一環として在校生の皆さんに、二中健見之塔の由来、平和の尊さを学ぶことに慰霊祭の意義があります。

本日の慰霊祭開催に際し、ご尽力

戴きました関係各位に対し深く感謝
申し上げますとともに、ご遺族の皆
様のご健勝をお祈り申し上げます。

令和三年六月二十三日

遺族代表 赤嶺 一